

PRIMERGY TX140 S1 / TX120 S3 / TX100 S3 (2012 年 5 月発表モデル) ご使用上の留意・注意事項

PRIMERGY TX140 S1 / TX120 S3 / TX100 S3 (2012 年 5 月発表モデル(*1))に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

(*1): 対象型名は下記 URL を参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/product-navi/>

2015 年 8 月

富士通株式会社

【PRIMERGY TX140 S1 / TX120 S3 / TX100 S3 共通】

1. UEFI モードでの OS インストールに失敗する場合があります

BIOS 設定の[Boot]メニュー - [UEFI Boot]を“Enabled”に設定して OS インストールを行うと、インストールに失敗する場合があります。この事象は“Disabled”(工場出荷時設定)では発生致しません。

なお、本設定における“Enabled”設定はご使用になれません。

2. BIOS 設定 [Quiet Boot]について

BIOS 設定の[Boot]メニュー - [Quiet Boot]における“Enabled”設定はご使用になれません。

3. Intel TXT 機能について

本装置では Intel TXT 機能(*2)はご使用になれません。

(*2): Intel TXT 機能(インテル®トラステッド・エグゼキューション・テクノロジー)

4. Onboard LAN 使用時の注意事項

Standard LAN では、WOL / PXE / iSCSI boot は未サポートです。

Shared LAN では、iSCSI boot の使用はできません。

5. AVR(Advanced Video Redirection) 機能ご使用時の制限事項

リモートマネジメントコントローラアップグレードオプション(PY-RMC31/PYBRMC31)ご使用の際、サーバの電源投入後に AVR 接続をした場合、BIOS セットアップメニューで AVR のグラフィカルキーボード(仮想キーボード)が使用できなくなる場合があります。AVR を使用し BIOS セットアップメニューをご使用の際は、サーバの電源投入前に AVR 接続を行ってください。

6. OS インストール時における制限事項

サーバへ LAN ケーブルを接続していない状態、且つ Windows server 2008 / R2 のインストール DVD を使用して OS のインストールを行った際、サーバのシステムイベントログに下記のエラーが大量に記録される場合があります。OS のインストールを行う際は SVS(ServerViewSuite) DVD をご使用になるか、LAN ケーブルを装置に接続してご使用ください。

- PCI: Advisory Non-fatal Bus: X Device: 0xXX Function: 0xXX

- Legacy PCI SERR Bus: X Device: 0xXX Function: 0xXX

7. 複数 USB デバイス接続時におけるサーバ起動時間に関する制限事項

USB デバイスを複数台接続した状態において、BIOS 設定の [Advanced]メニュー - [USB Port Security] - [USB Port Disable]を“Disable all ports”に設定してサーバを起動させた場合、サーバの起動に時間がかかる場合があります。BIOS 設定は正常に機能しており、サーバの機能にも影響ありませんのでそのままご使用になれます。

8. POST(Power On Self Test)中の iSCSI ブートメニューの表示に関する制限事項

BIOS 設定の [Advanced]メニュー - [Onboard Device] - [Launch Legacy OpROM]を“iSCSI”の設定有無に関わらず、電源投入後の POST にて iSCSI メニューが表示されます。

9. BIOS リカバリ実行時の留意事項について

USB メモスティックによる BIOS リカバリ実行時は、リカバリ用 USB メモリを除く、全ての USB デバイスを装置から外してください。正常にリカバリが行えなくなる可能性がありますので、必ず本留意事項をお守りください。

10. LAN カード(PY-LA101) ご使用にあたっての注意事項

LAN カード(PY-LA101)ご使用にあたっては、本 LAN カードに対応した、BIOS の適用が必要となります。各サーバにおける適用条件は以下となりますので、ご確認のうえ、ご使用の程お願い致します。

PRIMERGY TX140 S1 / TX120 S3: BIOS 版数 1.10.0 以降

PRIMERGY TX100 S3 : BIOS 版数 1.6.0 以降

各機種に対応した最新の BIOS は、以下の弊社ホームページに公開しています。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/>

11. ネットワークカード / システムボード交換に伴う設定情報の再設定について

Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2 を御使用の場合、ネットワークカード、またはシステムボードの交換、待機系装置への切替え、他装置へのリストア等を行うと、ネットワークコントローラを新規追加部品と装置が認識するため、ネットワーク関連の設定情報(IP アドレス / Teaming 設定など)が初期化され、再設定が必要となります。

マイクロソフト社の以下の KB(Knowledge Base)を参照の上、事前に Hotfix を適用することで再設定を回避可能ですので、適用をお願い致します。

Windows Server 2008(SP2): KB2710558(Hotfix 適用後、レジストリ変更が必要)

Windows Server 2008 R2: KB2344941 , KB976042 (SP1 適用時は、再度 Hotfix 適用が必要)

Windows Server 2008 R2(SP1): KB2550978 , KB976042

※ Hotfix 適用にあたっての注意事項

・Hotfix はマイクロソフト社のサポートページから入手してください。

2012 年 12 月時点では、以下の URL から検索可能です。

<http://support.microsoft.com/>

・Hotfix は、OS インストール時に搭載されていた部品情報を有効にするものです。

OS インストール後にシステムボード等を交換していた場合、OS インストール作業時の情報となります。

・Windows 2008 (SP 無)、Windows 2008 +SP1 用の Hotfix は公開されていません。

SP2 適用後に Hotfix を適用願います。

また、既にネットワーク関連の設定情報が初期化された場合も、Hotfix 適用により回復できる場合がありますので、この場合も適用をお願いします。

なお、Hotfix 適用によって回復しない場合は、ネットワーク関連情報の再設定が必要となります。この際、ハード変更前の LAN コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名を設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワーク関連情報を再設定してください。

(1) デバイスマネージャを起動します。

コマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。

```
set devmgr_show_nonpresent_devices=1
```

```
start devmgmt.msc
```

(2) 非表示デバイスを表示可能にします。

デバイス マネージャーで [表示] メニューの [非表示のデバイスの表示] をクリックしてください。

(3) コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。

色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

12. Windows OS におけるスリープ状態について

本装置では、Windows OS における[スタート]－[コントロールパネル]－[電源オプション]から“コンピュータをスリープ状態にする”の設定がご使用になれません。

【PRIMERGY TX140 S1 / TX120 S3 共通】

1. USB デバイスの認識について

BIOS 設定の [Advanced] メニュー - [USB Configuration] - [USB Port Security] - [USB Port Control] を "Enable rear and internal ports" に設定した場合、下記のケースにおいて USB デバイスを認識しなくなる場合があります。

- ・電源投入前に USB デバイスを接続せず、OS 起動後に接続する。
- ・OS 起動後、USB デバイスを別の背面 USB ポートに挿し換える。

※ BIOS 設定を "Enable front and internal ports" に設定した場合は、前面 USB ポートについて同様の事象が発生します。

USB デバイスを認識させるには、電源投入前に USB デバイスを接続するか、OS を一度再起動してください。

2. Java 8 update 45(8u45)でのビデオリダイレクション (AVR) 機能の留意について (対象 iRMC ファームウェア版数：全版)

※本事象は Java 8 update 51(8u51)以降の版数では発生いたしません。

Java 8 update 45 (2015 年 4 月 14 日公開) にアップデートした管理端末でビデオリダイレクションを起動する場合、プロキシサーバを使用する環境において、以下のメッセージを表示して本機能が動作しないことがあります。



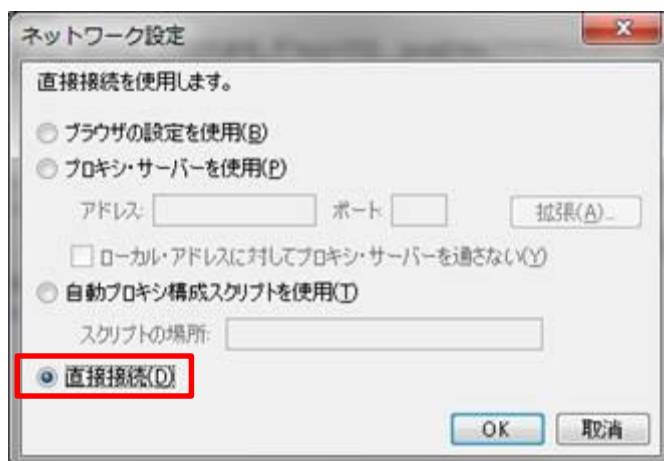
本事象は、以下のいずれかの方法で回避可能です。

- ① ビデオリダイレクションを起動する管理端末でプロキシサーバを利用しない設定にする。
 - ② プロキシサーバの設定で java.com へのアクセスを許可する。
- 注) 上記①②、設定をするに当たり、お客様ネットワーク管理者に確認ください。

なお、本事象は Java 8 update 40(8u40)以前の Java 版数では発生いたしません。

＜ 回避策①における管理端末の Java のネットワーク設定例 ＞

- (1) [スタート]メニューから [すべてのプログラム] → [Java] を選択します。
- (2) [Java の構成] をクリックして、[Java コントロール・パネル] ウィンドウを開きます。
- (3) [一般] タブを選択し、[ネットワーク設定] ボタンをクリックします。
- (4) [直接接続 (D)] を選択し、[OK] ボタンを押下。設定を保存し、終了してください。なお、設定変更後は WEB ブラウザの再起動が必要です。



【PRIMERGY TX120 S3 / TX100 S3 共通】

1. 電源動作について

PRIMERGY TX120 S3 および TX100 S3 のゼロワット機能対応電源搭載モデルにおいて、下記のとおり運用にあたり留意事項があります。ご使用にあたってはマニュアルと併せ本情報をご確認ください。

[留意事項 1]

下記表は、ゼロワット機能対応電源搭載時、AC ケーブルを電源から抜き、再度接続したときの装置の電源挙動の一覧です。

縦軸に BIOS セットアップユーティリティの BIOS Power Failure Recovery 設定を、横軸にゼロワット機能の有効/無効の設定と、さらに AC ケーブルを抜く前の装置の起動状態をとり、分類しています。

それぞれの設定や状態によって、AC 接続後の装置の電源挙動が異なります。

また、AC 接続後、電源オンまたはスタンバイモードになる場合、電源表示ランプが点灯するまでの時間は AC 給電が途絶えていた時間に依存します(最大で約 5 分程度)。

【TX100 S3 の場合】

BIOS Power Failure Recovery の値	ゼロワット機能対応電源			
	0W Enabled *1		0W Disabled *1 *2	
	AC ケーブルを抜く前の状態		AC ケーブルを抜く前の状態	
	オン	スタンバイ	オン	スタンバイ
Always off	スタンバイ *3	ゼロワット *4	スタンバイ *3	スタンバイ *3
Always on	オン	ゼロワット *4	オン	オン
Previous state	オン	ゼロワット *4	オン	スタンバイ *3
Disabled	スタンバイ	ゼロワット *4	スタンバイ	スタンバイ

【TX120 S3 の場合】

BIOS Power Failure Recovery の値	ゼロワット機能対応電源	
	0W Enabled *1	0W Disabled *1 *2
	AC ケーブルを抜く前の状態	AC ケーブルを抜く前の状態
	オン	スタンバイ

	オン	スタンバイ	オン	スタンバイ
Always off	スタンバイ	ゼロワット *4	スタンバイ	スタンバイ
Always on	オン	ゼロワット *4	オン	オン
Previous state	オン	ゼロワット *4	オン	スタンバイ
Disabled	スタンバイ	ゼロワット *4	スタンバイ	スタンバイ

*1: TX100 S3: BIOS セットアップユーティリティの Power メニューより、"Zero-Watt Mode"を変更。

TX120 S3: リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースより、Power Management 内の"0 Watt Technology"を変更。

*2: 標準電源搭載の場合、ゼロワット機能対応電源の 0W Disabled の設定時と同等となります。

*3: AC ケーブル接続後、電源ボタンを押していない状態で電源が入り、電源ランプが点灯します。その数十秒後、電源が自動的に切れますが、故障ではありません。その後、電源ボタンを押して、サーバを起動してください。

*4: ゼロワットモードになっていますので、電源投入する場合は、以下の記述にしたがい、操作してください。

TX120 S3	AC ケーブルを差し込んでも、装置前面の電源表示ランプは点灯せず、スタンバイモードにはなりません。電源投入する場合は電源ボタンを押下してください。一度電源ボタンを押せばスタンバイモードになり、もう一度押すと電源がオンになります。
TX100 S3	AC ケーブルを差し込んでも、スタンバイモードにはなりません。電源投入する場合は電源ボタンを押下してください。

[留意事項 2]

ゼロワット機能対応電源の 0W Enabled 設定で、AC 切断前の装置の状態がスタンバイモードの場合、電源制御装置や無停電電源装置による AC 切断等により AC 給電が断たれた場合、自動的に復電することはありません。電源制御装置や無停電電源装置によるスケジュール運転実施時は十分ご注意ください。

復電する場合は、以下の記述にしたがい、操作してください。

TX120 S3	電源投入する場合は電源ボタンを押下してください。一度電源ボタンを押せばスタンバイモードになり、もう一度押すと電源がオンになります。
TX100 S3	電源投入する場合は電源ボタンを押下してください。

[留意事項 3]

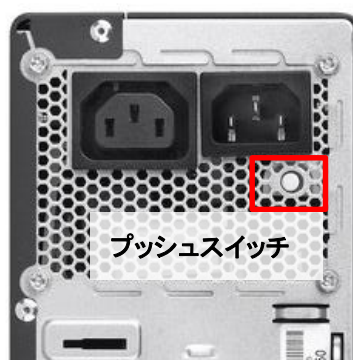
ゼロワット機能対応電源搭載時、システムボードや電源ユニットの部品交換直後、またはシステムボード上の電源コネクタ(「POWER1」または「PWR」)を抜いた場合、次に AC ケーブルを接続した時の装

置の挙動は下記となります。

TX120 S3	ゼロワットモードになっています。 電源投入する場合は電源ボタンを押下してください。一度電源ボタンを押せばスタンバイモードになり、もう一度押すと電源がオンになります。 以降の AC ケーブル接続時は、AC ケーブル接続後スタンバイモードになり、電源表示ランプがオレンジ色に点灯します。
TX100 S3	ゼロワットモードになっています。 電源投入する場合は電源ボタンを押下してください。 以降の AC ケーブル接続時は、電源ボタンを押していない状態で電源が入り、電源ランプが点灯します。その数十秒後、電源が自動的に切れますが、故障ではありません。

[留意事項 4]

ゼロワット機能対応電源には下図に示す白色のプッシュスイッチが搭載されています。
このプッシュスイッチは、電源供給状態確認のポーリング周期^{*1}を無視し、ただちに AC 供給したい場合に押下する事で、AC 供給→電源投入が可能となります。



- *1) 本電源ではポーリング回路が AC の入力を定期的に監視しています。
AC 入力が無い間、ポーリング回路は MoBo 上のリチウム電池から電力供給を受けて動作し、AC 入力を検出すると電源はシステムボードに電力供給を開始し、電源投入が可能となります。
ポーリングの周期は AC 無通電期間により徐々に長くなり、AC 入力からシステムボードへの電力供給は最大 5 分程度の時間差が生じることがあります。

— 以上 —